

畜産ニュース

◎6月の全国牛乳消費 飲用向けふえ好転のきざし

農林省統計調査部が7月29日公表したところによると、全国の6月の牛乳生産は239万9,000トンで、前年同月に比べ13%の増加であった。これに対し消費は飲用向け12万2,000トンで21.5%増し、乳製品等加工向けはほぼ横バイの9万6,000トン（1%増し）で、5・6月の飲用向けの増加がめだっている。そのため飲用向けの1月から6月の消費量でも、生産量の対前年同期比114.4%にほぼ同じ114.8%と、本年春までの不調からかなりの立直りをみせ、加工向けの伸びを上回っている。

◎日本畜産学会 関西支部大会は高松市で

日本畜産学会関西支部では本年度の大会をこの10月12・13の両日、香川大学学芸部で開催する。開催計画の概要はつぎのとおり。

研究発表（12日）＝9:00～17:00時、昼食（役員会）＝12:00～12:30、支部総会＝12:30～13:30、特別講演＝13:30～14:00

シンポジウム（13日）＝9:00～12:30＜第1部＞暖地集約酪農の技術と経営、＜第2部＞企業的養鶏の技術と経営、＜第3部＞肉畜生産（養豚を主とした）の問題点

なお第2部の助言者としては出口岡山県畜産課長、話題提供者としては岡山県養鶏試験場の川崎業務第2課長が予定されている。

◎第8回獣医畜産学会の開催

岡山県獣医師会では県農業共済連との共催で、本年度の岡山県獣医畜産学会をつぎの計画で開催する。

期 日 8月27日（火曜）午前9時

会 場 岡山市内山下岡山県庁9階ホール

行 事 研究発表 25題

（1題8分追加討論2分）

特別講演 12時40分より14時まで

〔講師〕元山口大学農学部教授木塚静雄氏

〔演題〕肉畜の増産と肉加工

◎中国連合畜産共進会開催を延期

岡山県では、このほど昭和39年秋に開催予定の第19回中国連合畜産共進会を、2ヵ年延期する旨関係各県へ連絡した。この共進会は中国各県の持ち回りで4年毎に開催されるもので、昭和36年10月兵庫県での開催に続いて、次回の昭和39年度には岡山県が当番県となっていたが、各県とも協議した結果、諸般の情勢から一応延期することとなった。

◎北酪共進会開催計画

北部酪農業協同組合では9月21日津山家畜市場で第11回岡山県北部乳牛共進会を開催する。

出品牛は、ホルスタイン種で、3部門にわかれ第1部は昭和37年7月1日以降本年1月2日以前に生れた犢牛、第2部は昭和37年6月末日までに生れた未經産牛、第3部は経産牛となっており、各部門ごとに審査される。

出品牛は、市郡別に割当てられ、第1部15頭、第2部18頭、第3部17頭と50頭である。

各部の優秀牛には、それぞれ褒賞されるが、最高位で入賞した乳牛にはチャンピオン賞が授与される。

◎第2回草地肥培優良事例コンクール

中央畜産会では、第2回草地肥培優良事例コンクールを実施している。

これは、畜産振興の基盤である草地の適正な肥培

岡山畜産便り 1963.08

管理を行ない、良質な牧草の多収穫の事例を全国的にとりあげて、その成果を公表し、今後の牧草地の効率的利用を図らんとするもの。

参加資格者は、畜産経営の改善のため牧草を管理している農業者または農業者の団体、市町村などであり、これには県の推せんを必要としている。審査基準は、10アール当りの生草収量を重点とし、草種、草質、肥培管理技術、改善の努力、牧草の利用内容についても考慮する。

調査は、今年の1月から12月の1年間にわたって行ない、優秀者には日本一賞（農林大臣賞）などの表彰規程がある。

来年度も同一要領で実施される予定であるので、参加希望者は今から準備しておくことが望ましい。

◎県草地協会総会

岡山県草地協会では（会長佐藤峯一郎）8月2日県遺族会館で昭和38年度総会を開催し、37年度決算報告および新年度予算を議決した。

◎お願い

さきに購読料納入について別途に文書でお願いしておりますが、今回全面的に整理を実施中ですので至急お払込み方御協力ください。